

ありす会会報

第4号



発行所

國學院女子短期大学
ありす会〒073
北海道滝川市文京町3丁目1番1号
TEL 0125-23-4111(代)

中今の秋



学長
西岡 弘

開学以来(昭和五十七年)学長として母校の基礎作りにご尽力された田邊正男先生が、昭和六十一年五月末日で退任され、西岡弘國學院大学名誉教授が新学長となりました。

学長就任と同時に本会の名誉会長となられた学長先生にご寄稿いただきました。

ありす会の皆さん、誌上でお初にご挨拶申し上げる機会を得ました。名学長であられた田邊正男先生の後任として、昨年六月こちらに参ることとなりました。何とぞよろしく願います。

田邊先生とは格別ご呢懇にご交誼を頂いて参り、就任早々にも、渋谷の大学での滝川会に、田邊先生・菅野学生課長さんらとともに、在京ありす会の皆さんにお目にかかりました。続いて八月、滝川でのありす会総会に出席させて頂き、十月には、皆さんがりっぱに基礎固めをされましたありす祭が、現在在校生の諸君によりみごとに開催されました。今はひたすらこのありす会の発展を願っております。

國學院大学が創設されて百五十年、わが國學院女子短期大学が開学されて五年になります。この節目のよい記念すべき年に思いあわせられますのが、「中今」にかかげた「中今の秋」と申すことです。中今ということは中国の書物にも見えぬようできて、わが国で「古事記」の成る四年前の和銅元年(七〇八)の宣命に見えます。「今」を時の流れの終着時と見ないで、開学五年は十年の中今であり、建学百五年は二百十年の中今であるという見方があります。悠久の過去をもつ日本の文化は、それだけ永遠の発展につながる「中今の秋」を刻みつつあるのだ、という認識です。この発展的な考え方は国歌君が代の「さざれ石の巖となりて苔のむすまで」にもよく現われています。

同じ時の流れの悠久さを現わすことばでも、仏教語の「億劫」(國語の「おっくう」の語源)が、大岩石の何百年かに一度現れる僧の衣の裾に擦り減らされて無くなるのというのとは、まさに正反對です。また、中国にもこの中今に通ずる表現が無くはなく、今日書道

第四期生迎える

四期生の皆さん御卒業おめでとうございます。ありす会を代表して心からお祝い申し上げますと共に新たにありす会の会員となる皆さんを心から歓迎いたします。

皆さんが在学中はあまり縁の深くなかったありす会ですが、これから卒業後の皆さん同士や大学とを結ぶバイブラインとして利用していただければよいと思います。それと同時にこれから続いてくる後輩たちの応援

道志す方が必ず学ばれる晋の王羲之(三〇三—三七九)の「蘭亭集序」に、「後の今を視るも、亦なほ今の昔を視るがごとし、悲しいかな」と申します。しかしこの今は、人類は永遠に人生無常のほかなぬ今だという嘆きに発しています。

私どもの祖先は、今を将来の発展への中今としてとらえて参りました。校歌にいう「祖先の道は見よここにあり、子孫の道は見よここにあり」というのも、この中今の考えではありますまいか。わが礎となるものと信じています。

(六六、一一、一六)

二人の卒業生の 「職場」観



英語学科長

小林 敬爾

職場とは、人間を拘束する場にほかならない。なにがしかの金を与えて人間の自由を手枷足枷拘束する。それが、職場というものだ。片や、人間は自由を希求する。自由を拘束されるということは、生き甲斐を失くすのと同じこと。だから、職場にいる人間が、職場に不満を持た

いる教わることも多いのですが、緊張のあまり何かと暗くなりがちで、笑顔が少なくなったのではないかと心配です。いじめられているわけではないと思うのですが、このまま性格を変えてしまうよりは、いつそ転職を—と考えたこともありましたが、

しかし彼女、そんな苦衷を乗り越きつて、今ではその会社になくてはならない存在になっている模様。

次は二期生から。

ない筈はない。しかも現代では人間関係というヤツがいちばん厄介だ。
二年前に一期生からもらった手紙——
「……最近では仕事より、むしろ先輩に対する気配りのほうが大変だと痛感しています。社会人としての生き方など、いろ

「……卒業後すぐ書けばいいものを、今頃になってという気がしないでもありませんが、実を言うと先生への手紙、何度も書きかけたんです。でも書いていくうちに、だんだん職場でのグチばかりになってしまい、あとが続かなくなり、自分でも嫌になってしまふ、というパターンを繰り返すうち二年近くも過ぎてしまいました。(中略)
庶務課・人事課・経理課などの仕事内容は、入社前に想像していたのには近いのですが、私がある〇〇課ときたら、毎日電話がジャンジャンかかってくる

わ、残業はあるわ、日曜出勤はあるわ、しかも仕事に男女の区別はないといった感じ。(中略)
先日、同じクラスだったSさんと久し振りに会い、お互いに職場の不満、あごがだるくなるまでプチ撒けあつて、ストレスを解消しました。」

しかし、そんな彼女も、

「研修中に習った丁寧語を使うと、かえって「そんなに丁寧に言わなくてもいい」と注意される始末で、最初は「こんなスゴイところでやっていけるだろうか」と不安で一杯でしたが、仕事を覚えてくるとだんだんこの職場が面白くなり、毎日が充実している感じがす。」

と結んでいるあたり、ボクもひと安心というところ。

人間、生きるためには金が必要。金を得るには職場が必要。が、職場は人間の自由(こころの自由・時間の自由・生きざまの自由etc)を拘束する。どこまで妥協するか、どこで諦めるかが難しい。ヤレンナア。これ、君たち同様、ボクにとって永遠の課題。

86ありす会総会結果について



昭和61年度ありす会総会が八月十日滝川ホテル三浦華園で行われました。

皆さんに送付済の総会次第に基づき各議題が進行され、次のような結果となりました。

▽報告事項 昭和60年度事業報告
決算報告・会計監査報告がそれぞれ承認した。

▽協議事項 昭和61年度事業計画
予算案・規約改正は原案どおり可決された。

総会後、諸先生にご出席いただき懇親会を開催しました。新学長

西岡弘先生から「ありす会の名誉会長となったことは光栄です。」とごあいさつをいただきました。各テーブルでそれぞれの話がはずみゲームなど楽しみましたがその一幕に、小泉学科長先生(現副学長)と柏村教授(六十二年就任)の「花も嵐もふみ越えて」(愛染かつら)の歌と踊りは拍手喝采となりました。

出席者が少数だったことが残念でしたが、諸先生に多数ご出席いただいたことは感謝に耐えません。ありす会員皆さんには、毎年行われるありす会総会・懇親会には是非ご出席願ひ、会員の親睦と融和をはかっていただけたらと思っています。

一人でも多くの方が、ありす会に関心を持っていただくために、事務局としても検討していきたいと思っています。そこで、今回「同封しましたハガキ」でアンケート形式を取りたいと思います。たとえば「この時期、この時間なら出席できる。」等、具体的に書いていただければ大変参考になります。近況報告をかね、ぜひ4月末日までに返送をお願いします。

国文科卒業生の

皆さんへ

国文科卒業生の皆さん、待ち望んだ土筆の春を迎え、ますますご健勝のことと思います。国文科に国文学会という研究会が発足して今年で五年目を迎えます。その間、六回の公開講演会が行なわれ、また機関誌「滝川国文」も順調に三号を刊行するに至りました。三号には新卒の四期生の、二年間の立派な成果の一端を載せることができ、私も教員一同大いに喜んでいきます。さて、新卒の皆さんはこれから就職に、進学にと新たな門出が始まるわけですが、既卒の一期生・三期生の皆さんも各方面でご活躍のことでしょう。私も国文科教員・在学生会員はもとより、国文科・国文学会の発展のために努力する所存ですが、皆さんもお力添えをくださるべく、ご研究・ご意見を国文科宛にお寄せください。また、春秋二回の公開講演会にも是非おいでください。連絡いたなければ案内状を差し上げます。

別れ路は雲井のよそに

なりぬとも

そのたの風の便りです。な
今後のますますのご活躍をお祈りします。
(村山昌俊講師)

時計砂



新しい経験

三期生 英語科

伊藤 静子



私が社会人になって早九ヶ月が立とうとしています。この九ヶ月は、私にとつて驚く程早く過ぎていきました。入社してすぐに横浜へ研修に行き、

分達が覚えた仕事をパート社員の方達に伝えるという仕事もありました。自分でも初めての仕事で学ぶことが山ほどある中で人に指導していくなど大変なことです。その

滝川へ戻るとすぐ開店の準備が始まり、その間も毎日色々な講習がありました。殆どは経験のない新しい人達ばかりで、開店してからゆつくり仕事を覚え

上、私が横浜で研修してきた仕事は他の誰も経験したことのないものでしたから、相談することは出来ても教わる訳にはいきません。明日が本番という前の日になって

九ヶ月近くたっても、まだまだ分からないこと、巧いかなことだらけですがこれから一杯頑張っていくつもりです。

(横浜友滝川店勤務)

第3回 幼児教育研究会
のご案内

寒さの中にも、ひなまつりが近づいてきました。卒業生の皆さんの職場でも楽しい催しの準備が進められていることと思います。昨年春、卒業の三期生の人々はまだ目のまわる忙しさが続いているでしょうか。そして一、二期生の人たちはもう周囲を見まわすゆとりが生まれている頃かと思えます。

時期には少し早いのですが、例年行われる國學院女子短気大学幼

パソコンが動かなくなり、それを何時間もかけて直している時の泣きたい、逃げ出したい気持ちは、今でも忘れることが出来ません。残暑の中、雨の降る日に一軒一軒、家を宅訪にも歩きました。企画書を作成するのに毎日、夜遅くまで残業したこともありま

す。しかしそういった開店前の苦勞が大きければ、大きいほど無事開店を迎えた時の喜びもまた一生忘れられない経験だと思っています。

英語科卒業生の

皆さんへ

國學院女子短気大学が開学して5年が過ぎようとしています。石の上にも三年と言いますが、それを二年も越えました。国文科や幼児教育科では、それぞれ研究会や発表会など独自の活動が立派な成果を上げています。我が英文科としてもこの辺りでそろそろこの五年の成果をなんらかの形で世に問いたい、いろいろ考えてまいりました。その一つとして、今年度内に二年生の勉学の成果をSynopsis

児教育研究会の開催についてお知らせいたします。今年は早くも、三回目になります。まだ、テーマや分科会などの詳しいことは決つておりませんが、各期の幹事の皆さんと打ち合わせたいと思つてい

るところです。今のところ内定していることのみ左記のようにお知らせしておきますのでこの夏の日程にあらかじめ組みこんでおいてください。

今、高質の保育が求められている時代です。新任の悩みを顔見知りの雰囲気の中で解決し、また、ゆとりある人達には子どもの瞳の輝きをさらに増すためのあり方を求めて研修の場に集まりましょう。卒業生の皆さんの懐かしいお顔を

一人でも多く参加することを心から期待しております。

記

●とき 昭和六十二年八月二日(日)

●ところ 札幌市内中央区内

●会員 年度会費 千円(昼食別)

●参加の方々には研究会機関誌「幼樹」二号をお渡しします。

※会の前日(土)には各年度各クラスごとにクラス会を開くなど如何でしょう。

大通り公園ビヤガーデンでブライダル情報の交換をかねて。

昭和六十二年二月二十日

國學院女子短期大学幼児教育研究会

会長 安藤 忠吉

卒業生の皆さん

5%の形で発刊しようと計画しています。短大の学生生活は二年間と短いので、四年制の大学と同じような研究の成果を期待することは出来ないかもしれませんが、毎日の授業を通じて学んだことを何かの形で残すことは可能な筈です。夏休みに学生たちに呼びかけた結果、十数編の作品が集まりました。これらを編集してささやかながら、これからの活動の礎にしたいと思つていきます。やがて卒業生も含めたもつと大きな輪に広がることを念じながら今着々と準備中です。

(飯田学而助教授)

終身会費の納入について

第三号（昭和六十年十一月二十五日発行）において「終身会費」とすることについて、現状等をお知らせし、その後事務局側の都合により、ありす会員各位への連絡が遅れたことを、おわびいたします。

「会費は在学中に終身会費として、一万五千元を納める。」の施行に関し、二・三事務局より説明をいたします。

○在学中に終身会費として納入することにより活動計画の立てやすさ。

○業務・経費の軽減等。

○会員の会費納入方法としての容易さ。

などがあげられます。

「終身会費」について疑問をお持ちの方とも説明しました。

現在の状況は、一・二期生二千円、三期生五千円納入されています。一万五千円の差額としてそれぞれに次の図のとおりとなります。

ご納入のほどよろしくお願い申し上げます。

	在学中納入額	今回差額納入額
二期生	二千円	一万三千円
三期生 (隔年納入)	五千円	一万円

※納入期限昭和六十二年四月末日

なお、三期生の皆さんには卒業時に納入をお願いし一部の方（SP参照）は納入済です。氏名掲載の方々は今回の納入には該当しませんのでご注意ください。納入方法は、原則として同封の郵便振替払込書での一括納入とさせていただきます。なお、都合により分割納入方法を希望の方は、振替払込書裏通信欄に納入方法を詳細に記入しお知らせ下さい。

会員の皆さんも、それぞれにご予定もあることと思いますが、四月末日迄に納入をよろしくお願いいたします。

ありす会の運営を円滑に行うために、皆さんのご協力をお願いいたします。



前略ありす会の会員のみなさんには、その後お変わりなくお元気にご活躍されておられることと思います。この紙面をお借りして、みなさんの母校の近況や滝川のこなどをお知らせしようと思ひます。

示され、みなさんの過したときより文化度が高まったようです。そうそう、とても大事なことを二つお知らせしましょう。その一つは、開学以来本学の発展にご活躍なさってこられた田邊正男先生が昨年五月末に学長を退任され、その後任には國學院大學名誉教授西岡弘文学博士が就任されました。もう一つは、みなさんの進路について大変なご努力をされるとともに何かとご指導いただいた就職相談室長澁川勝石先生が昨年十月末で退任されました。

キャンパスだより

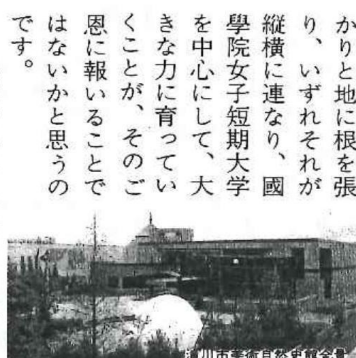
総務課長 平野富康

みなさん、ご記憶に残っていますか？滝川の冬まつり。今年は校舎前に「因幡の白兎」と題する大雪像（!?）を制作して参加。多数の参加作品のなかから、美事銅賞に輝きました。

ところで、一寸淋しかった滝川駅前には西友ストアが開店して、新しいコアが出来た感じです。中心街の人の流れが変わったような気がします。また、例のタキカワ海牛を陳列した美術自然史館が完成し、郷土出身の画家の絵なども展示され、みなさんの過したときより文化度が高まったようです。そうそう、とても大事なことを二つお知らせしましょう。その一つは、開学以来本学の発展にご活躍なさってこられた田邊正男先生が昨年五月末に学長を退任され、その後任には國學院大學名誉教授西岡弘文学博士が就任されました。もう一つは、みなさんの進路について大変なご努力をされるとともに何かとご指導いただいた就職相談室長澁川勝石先生が昨年十月末で退任されました。

みなさんには、何かしら心寂しい思いをなさったかも知れませんが、これは大きな流れのなかの一つのエポックであって、こうした事象を一つひとつ積み重ねていくのだからとした形が築かれていくのだと思います。

敢えて言わせていただければ、田邊先生、澁川先生始め数多くの先生方から得た多くの薫陶を土台として、みなさん一人一人がしっかりと地に根を張り、いずれそれが縦横に連なり、國學院女子短期大学を中心にして、大きな力に育っていくことが、そのご恩に報いることではないかと思うのです。



滝川市美術自然史館全景

幾度か咲いてまた散る鉢のぼけ
吾が人生もかくてありたし
私の祖父の辞世の一首です。人間いくつになってもこの気持ちを持ち続けられ、いつまでも若く美しく（精神的に）いられるのではないかと思うのです。

最後になりましたが、是非機会をおつくりいただいて、母校をお訪ね下さい。困った時、苦しい時そして悲しい時、もちろん嬉しい時も楽しい時もみなさんを暖かくお迎えすることでしょう。あの時と変わらぬ佇まいでお待ちしています。きっと、あなたの心を和ませてくれることでしょう。少しづつくなつてしまいました。ごめんなさい。今後の益々のご発展をお祈りし、筆をおきます。

昭和六十二年堅雪

平野 富康
ありす会会員のみなさん

草々

終身会費 納入者

三期生

※ありす会終身会費納入ご協力ありがとうございました。

支部会報

道南支部

一月三日(土) ありす会としては初めての試みである支部会が道南地区にて開催されました。例年総会は開いているものの、各地区ごとの集まりを持つことがなかなかできませんでした。そこで今回は初めてであり支部会という名称ではありましたが、道南の一期生から四期生までが集まって楽しくお話ししませんかという懇親会的な会としたわけです。

準備不足で通知期間が短かったため少ない人数でしたが先輩後輩のべだてなく、現在の大学の様子や先生方の近況、就職や編入に対する後輩の不安に先輩が答えるという大変中身の濃い支部会となりました。今回出席していただいた方がありがとうございました。また出席されなかった方も今回の反省点を考慮し、また支部会を開催したいと思いますので次回ぜひ御参加下さい。

(国一卒業 石真樹)

祝電プレゼント

このたびありす会では、短大側の協力を得て結婚に際し、ささやかですがお祝いとしてありす会員皆さんへ祝電のプレゼントをします。

この提案をされた学生課長の菅野先生はこうおっしゃっています。「一生に1度のまさに、華燭の典を挙げられるわけだから、母校の学長先生から祝電をお送りして花を添えるのも実に意義あることだと思いますよ。まさに國大ファミリーここにありという感じですよね。」

次のことをぜひお知らせ下さい。

- 結婚される日時○祝電配達希望日
- 式場名(○○ホテル・○○の間)
- 式場住所○氏名(新・旧)○現住所
- 新住所(結婚後)

※10日前ほどにありす会事務局(短大内)

まで電話及び手紙にてご一報下さい。

第4期生に記念品

今春卒業生にありす会では、卒業記念・ありす会入会を記念し、「ふくさ」を贈呈します。このふくさが社会人となられる皆さんにはば広く有効に活用していただけるよう願っています。

さて、ふくさの名称は田中良吉さん(滝川市役所勤務)にご揮毫いただきました。皆さんの卒業証書の氏名も田中さんに書いていただいています。さらに日頃からご指導いただいています本学バレエ部は、全道レベルを備えるように育っています。

卒業・入会記念品は毎年贈呈します。ご意見をお寄せ下さい。

[illegible]

恩師消息

▽第一面でお知らせしましたが、

編集後記

学長先生が田邊正男先生から西岡弘先生に変わられました。

▽61・12・11付で国文学科長小泉弘先生が、副学長にご就任になりました。

▽国文科の森安正宏先生・松田稔先生が61・3・31付でご退任になられ、柏村静子先生・安田義明先生が61・4・1付でご就任なさいました。

▽澁川勝石先生が、61・10・31付で進路相談室長をご退任されましたが、引き続き61・11・1付で進路相談室顧問にご就任されました。

☆諏佐かほりさん(国文科・三期生)から、砂時計のコラムについて、おたよりをいただきました。

『コラム欄のタイトルが「砂時計」ですが、静かにサラサラと、しかし確実に時を刻む砂時計。そういう生き方がしたいものです。まだ私は仕事が目白押し、と感じる程仕事はしていないのですが、砂時計の砂が静かに落ちてたまる様に、静かに充実感が感じられる仕事が早くできる様になりたい、少しずつでも着実に成長できる人間になりたい、と思う今日、この頃です。』

あります会事務局では、会員の皆様からのおたよりをお待ちしています。

☆62年度「ありす祭」6月19・21日決定!ぜひ母校へのお越しを……